

日産科学振興財団 理科／環境教育助成 成果報告書

回次：第 4 回 助成期間：平成 18 年11月1日～平成 19 年10月31日

テーマ： 地域の自然調査活動を通じた環境教育の取り組み

氏名： 谷 友雄 所属： 福岡市立若久小学校

1. 課題の主旨

地域の植物や生物を継続観察することで、身近な環境での生物の存在に気づく。また、自然教室で行く篠栗でも生物調査を行い、篠栗の生物と若久の生物を比較することにより、自然や環境と生物との関係について考える。このように、一年間を通して生物を継続調査する活動を通して、調査に基づく調査収集能力、生物を図鑑で調べる力等の自然調査能力を育成すると共に、自然と共存する環境のあり方について考えることが出来るようにする。

2. 準備

- 生物調査を行う場所、コースの決定。
- 一年間の調査とまとめの計画。
- GTの選定と依頼。
- 図鑑やデジタル図鑑、調査道具の準備。

3. 指導方法

- 〈5年〉
- ① 昆虫・土壌生物コース、水生生物コース、植物コースに分かれ、若久周辺の生物を春・夏・秋・冬という季節の変化を追いながら、調査活動を行う。
 【昆虫・土壌生物コース】…野間大池公園と若久住吉神社での定点観測による調査。
 【水生生物コース】…野間大池、若久川、大戸池での水質調査と生物の観察による調査。
 【植物コース】…若久校区を8地区に分け、グループ別に担当地区の定点観測による調査。
 - ② 自然教室では、篠栗の県社会教育総合センター周辺の生物調査を行い、若久で見られる生物と比較する。
 - ③ 一年間の調査結果をまとめ、保護者や地域へ発信する活動を行う。
- 〈6年〉
- ① 校内や校区内に見られる生物の中から自分が調査する生物を決め、一年間の継続観察を行う。
 - ② 一年間の調査結果は、一人一人が論文形式でまとめる。

4. 実践内容

〈5年〉

- ① オリエンテーションを行い、自分の調べたい生物コースを選択する。
- ② コース別で春・夏・秋・冬の調査を行い、まとめる。

【植物コース】

○ 校区を8つの区域に分割し、それぞれをグループで担当し、春・夏・秋・冬に見られる植物の種類や数、様子を観察・調査した。その際、よく見られる植物を写真で示したカードをもとに調査を行い、他に見つけた植物は押し花にして保存し、パソコンや図鑑で調べた。調べた結果は、個人で地図や表、絵等を使い、分かりやすくまとめ、四季による植物の変化に気づくことができた。

【昆虫・土壌生物コース】

○ 野間大池公園、若久住吉神社で、生物を探し、見つけた生物の種類や住処、特徴などをパソコンや図鑑で調べ、新聞やカードにまとめた。調査を繰り返すごとに、昆虫の体の細かい特徴にまで詳しく観察ができるようになった。

【水生生物コース】

○ 校区にある野間大池、若久川、大戸池の3カ所と学校の観察池から水を取り、その中に見られる生物を顕微鏡で観察したり、パソコンや図鑑で調べたりして調査した。また、パックテストによる水質検査も併せて行い、指標生物の表を使って水質と生物の関係にも気づくことができた。

- ③ 自然教室では、自然観察指導員の方々に教えてもらいながら、野山の植物や昆虫、小川の水生生物を採集し、調査を行った。そして、若久の住宅街で見られる生物と篠栗の野山で見られる生物とを比べ、自然や環境の違いと生物との関係について考えた。



5. 成果・効果

- ① 一年間継続して生物調査を行い、自然調査活動の取り組みが分かるコーナーを設置して発信活動をしたことで、自然に対する関心が高まり、日常生活の中でも自然に対して目を向ける子どもが多くなった。
- ② 実際に観察したり、図鑑やパソコンを使って調べたりする活動を通して、情報を収集したり観察したりする自然調査能力が高まった。
- ③ 若久での調査と篠栗での調査を比較することで、自然環境と生物の関係について気づくことができ、自然環境の大切さを実感することができた。
- ④ 観察力を高めるために、観察項目を書いた評価表を活用することで、観察の視点が広がり多面的な思考につながった。

6. 所感

植物コースで初めての活動を行ったときに、子どもたちの感想で多かったのが「雑草と思っていた植物の一つ一つに名前があり、花が咲くことを知って驚いた」ということだった。その後、登下校中の道で見つけた植物の話が出るようになり、いつも目にしていながらも気づけなかった「自然」の存在に気づく子どもが多くなったように感じる。このように子どもたちが意識していない自然に目を向けさせることで、自然環境の大切さに気づく視点ができるのではないかと考える。特に、自然観察指導員の方々に教えて頂いた知識もさることながら、植物を使って遊ぶときにも「取りすぎを防ぐために一枚の葉っぱにもいただきますと口に出して言う」指導員の方の自然と共存していく姿勢が、子どもたちにとって印象に残っていた。今回の活動で、日常的に自然や生物に関心をもつことができたのが、今後、環境への気づきから実践へつながっていくことを期待したい。

7. 今後の課題や発展性について

- ① 現在、一月の学習参観を利用した発信活動を予定し、準備中である。今まで学習してきたことをわかりやすく保護者や地域の人に発信する方法を考え、保護者や地域の方と一緒に自然や環境について考える場を設定していく。
- ② 自然と共存する環境のあり方について考えたことを実践に結びつけることができるような学習課程を、各教科や総合的な学習の時間に組み込んでいく。

8. 発表論文、投稿記事、メディアなどの掲載記事

福岡市教育センターの学力パワーアップ事業に於いて、研究発表した。